

大学図書館における読書指導
～漫画コーナーの設置とその効果～

菅邦男 小橋智子 山元奈々 羽生由三子

〈キーワード〉 大学図書館 読書指導 漫画

1 研究の目的

本研究の目的は、「大学図書館に漫画コーナーを設置することにより、如何ほどの活性化が見られるか」等、大学図書館における漫画導入の効果を探ることにある。

宮崎学園図書館ではこれまで「大学図書館は学生に利用されてこそ存在意義がある」との考えのもと、多読賞の設定（25年度）、ビブリオバトルの実施（26年度）、学生教職員の絵画展示（26年度）、その他のイベントを行い、活性化を図ってきた。

漫画については、原則としてリクエストも受け付けておらず、所蔵している少数の漫画も殆どが寄贈によるもので、配置場所も関連分野毎にばらばらという状態だった。大学図書館に漫画を置くという発想は無かったのである。

漫画の需要がいかに多いかに気付かされたのは、多読賞やビブリオバトルに関する学生との対話の中においてであった。「僕たちは漫画しか読みません」と言う男子学生もいた。活字本は読まないという学生でも、漫画にはとても詳しい。漫画のレベルも向上し、学生に読ませたいと思う作品も多い。例えば、『かくかくしかじか』（東村アキコ著 集英社）には漫画家になるまでの青春時代の迷いや焦りが故郷・宮崎市を舞台に描かれている。地方にいるが故の悩みや焦りには、共感するものがあると思われる。東村氏はこの作品で『マンガ大賞 2015』（主催：マンガ大賞実行委員会）を受賞している。農業高校を舞台にした『銀の匙』（荒川弘著 小学館）もユーモアを交えながら若者の悩みを扱っており、考えさせられる作品である。『マンガ大賞 2012』他を受賞し、映画化もされている。漫画があれば、もっと学生は図書館に足を運んでくれるのではないか。何より、学生に漫画導入の要望があるのであれば、活字本だけでなく、大学図書館としてその要望に応えるべきなのではないか。

要望に応えるためには、潜在的なニーズを数的に明確にする必要がある。「大学図書館は学術書を収集すべき。漫画は相応しくない」と考える人もいる。ニーズを顕在化し、学生の現状を知らしめなければならない。

そこで館内に整備中であったラーニングcommons空間（東側1階137㎡）に漫画コーナーを設置することを考え、その是非を学生・教職員に問うことにした。

2 宮崎学園図書館に漫画コーナーを設置することに対する是非 —アンケート結果—

【学生へのアンケート】 27年4月実施

学生へのアンケートは宮崎国際大学（国際教養学部、教育学部）・宮崎学園短期大学（保育科、現代ビジネス科）を対象に無作為に抽出して行った。その結果478名（国際教養学部95、教育学部41、短期大学342）の回答を得た。

（注 全学生数919人。教育学部は26年度に発足したばかりで学生数が少なかった。）
アンケートの主な問いは次のとおりである。

1) あなたは日頃、漫画本や活字本（文章のみで構成された本）を読みますか？

- 漫画本も活字本もよく読む
- 漫画本は読むが、活字本はほとんど読まない
- 漫画本も活字本もほとんど読まない
- 活字本は読むが、漫画本はほとんど読まない

2) 宮崎学園図書館に漫画本コーナーを設置することについて、どのように思いますか？

- 賛成 反対 どちらとも言えない

3) Q2で「賛成」と答えた方へ：理由を教えてください（複数回答可）

- 漫画は日本の誇るべき文化
- 読むとくつろげる
- 漫画本も活字本も、色々読みたい
- 漫画で国際交流ができる
- その他（理由： _____）

4) Q2で「反対」と答えた方へ：理由を教えてください（複数回答可）

- 漫画は子どもの読むもの
- 漫画は低俗で本とは呼べない
- 図書館で購入するべきではない
- 漫画を買う費用で活字本を買って欲しい
- その他（理由： _____）

5) Q2で「どちらとも言えない」と答えた方へ：理由を教えてください（複数回答可）

- 内容による
- 漫画本を読まないので分からない
- その他（理由： _____）

*以下、略（資料1）

「宮崎学園図書館に漫画コーナーを設置すること」に対して、478名中381名、約80%の賛成を得た。国際教養学部58%、教育学部83%、短大85%の賛成である。

*賛成 381名 (80%)

国際教養学部 55名 (58%) 教育学部 34名 (83%) 短大 292名 (85%)

*反対 13名 (3%)

国際教養学部 11名 (12%) 教育学部 1名 (2%) 短大 1名 (0%)

*どちらとも言えない 84名 (17%)

国際教養学部 29名 (31%) 教育学部 6名 (15%) 短大 49名 (14%)

反対と答えた学生は3%弱で、理由は「図書館で購入するべきではない4名。漫画を買う費用で活字本を買って欲しい4名」である。その他の理由は「個人の趣味であって図書館で揃える必要性を感じない。他の雑誌購入にお金を使って欲しい。漫画を読むだけに来る人が増えて勉強の邪魔になる」等で、中には「盗難される恐れがある」というのもあった。形態的に漫画は持ち出しやすいということだろうか。それとも、盗難の恐れがあるほど漫画は魅力的だということか。

「どちらとも言えない」理由は、「内容による」44名 (52%)、「漫画本を読まないのだから分からない」33名 (39%)である。「内容による」のはもっともだが、それはむしろ漫画に限ったことではない。

いずれにしろ積極的な反対は478名中13名の3%弱であり、漫画コーナーの設置は概ね学生の賛同を得たと言って良い。

「賛成」の理由は「読むとくつろげる」が最も多く、延べ447名中157名で35%であった。次いで「漫画は日本の誇るべき文化」122名 (27%)、「漫画本も活字本も、色々読みたい」114名 (26%)と続き、「漫画で国際交流ができる」は41名 (9%)である。学生にとって漫画は「楽しめるもの、くつろげるもの」なのである。

「1、あなたは日頃、漫画本や活字本（文章のみで構成された本）を読みますか？」との問いに対しては、次のようになっている。

*漫画本も活字本もよく読む 119名 25%

(賛成 102 反対 3 どちらとも言えない 14)

*漫画本は読むが、活字本はほとんど読まない 161名 34%

(賛成 145 反対 1 どちらとも言えない 15)

*漫画本も活字本もほとんど読まない 165名 35%

(賛成 113 反対 7 どちらとも言えない 45)

*活字本は読むが、漫画本はほとんど読まない 33名 7%

(賛成 21 反対 2 どちらとも言えない 10)

「漫画本も活字本もほとんど読まない」と答えた学生が165名 (35%)いるが、そのうち約68%の学生が漫画コーナー設置に賛成している。漫画コーナーが設置されれば、それ

だけの学生が来館する可能性があるということである。

【教職員へのアンケート】

教職員へのアンケートでは、配布数 114 のうち回答数は 41 で、約 36% (大学 26%、短大 47%) の回収率であった。

回答者 41 名の内、賛成 23 (大学 7、短大 16)、反対 4 (大学 4、短大 0)、どちらとも言えない 14 (大学 9、短大 5) であった。賛成数は全体の 56% である。

賛成理由「その他 (自由記述)」では、「漫画で学ぶこともある。図書館への学生誘導になる」「図書館へ足を運ばせるきっかけにもなる」「漫画であれば学生も手にしやすいのではないかと思う」「選択肢を広げる意味で賛成」「Manga help me to learn the Japanese language.」等があった。漫画コーナー設置の意図がよく理解されていると言えよう。「Manga help me to learn the Japanese language.」(外国人教員)については、逆に言えば、英語の漫画本を購入することにより英語の効率的な勉強が出来ることを意味する。

反対理由は「漫画は大学図書館以外でも読めるだろうから、current academic literature を購入して欲しい」「大学図書館は漫画購入に経費を使うべきではない」といったものである。大学図書館は学術的な文献を購入すべきとの考えである。無論、大学図書館が学術的な資料を収集すべきことは言うまでもない。しかし 35% もの学生が「漫画本も活字本もほとんど読まない」という現状を考えると、学術的な文献ばかりを揃えても、学生の足は遠のくばかりなのではないか。「漫画本は読むが、活字本はほとんど読まない」を加えれば、68% 強の学生が活字本を読まないのである。

では、他大学の図書館はどうか。

他大学の現状を知るため、九州国公立大学・短期大学図書館に漫画の取り扱いについてアンケートを実施した (第 66 回九州地区大学図書館協議会総会 承合事項 7 平成 27 年 4 月)。(資料 2)

3 大学図書館における漫画購入に関する意識と現状

平成 27 年 4 月 16 日に宮崎市で行われた第 66 回九州地区大学図書館協議会総会の承合事項として「大学図書館に漫画 (学習漫画を含む) を置くことの是非」を問うた。

回答大学数は、国立大学 11、公立大学 15 (2 館有している大学があるので延べ数 16)、私立大学 47 (集計ミスにより実質的には 46)、私立短期大学 4、計 77、実質 76 校、77 館である。

①現在、大学図書館にどの程度漫画を所蔵しているか (おおよそ、蔵書数の何パーセントを占めるか)。

※回答

- *国立大学 (11) イ、5%未満 11
- *公立大学 (16) ア、0% 2 イ、5%未満 13 無回答 1
- *私立大学 (46) ア、0% 3 イ、5%未満 41 ウ、5~10%未満 1
無回答 1

*私立短期大学（4） イ、5%未満 4

計 77 館の内、「ア、0% 5 イ、5%未満 69 ウ、5～10%未満 1 無回答 2」である。「5～10%未満」が1館あるが、これは蔵書数との関係（割合）なので所蔵冊数は他とさほど変わらない。全体に漫画の所蔵冊数は極めて少ないと言えよう。

②学生は漫画を購入して欲しいと思っているか。図書館は潜在的な要望をどう感じているか。要望は、ア、ほとんど無い イ、少しはある ウ、多い エ、とても多い

※回答

*国立大学 ア、ほとんど無い 5 イ、少しはある 6

*公立大学 ア、ほとんど無い 10 イ、少しはある 6

*私立大学 ア、ほとんど無い 18 イ、少しはある 24

ウ、多い 3 エ、とても多い 1

*私立短期大学 ア、ほとんど無い 1 イ、少しはある 3

◆計 77 館

ア、ほとんど無い 34 イ、少しはある 39

ウ、多い 3 エ、とても多い 1

「とても多い」と回答した館は①でも漫画所蔵冊数を「5～10%未満」と回答しているが、自由記述では「推奨しているわけではないので所蔵数は少ない」としている。基本的に漫画の購入はしないが、学習漫画に限っては教員や学生の要望もあり購入しているとのことである。要望は多いが積極的にはそれに応えていないということであろう。

「多い」と答えた3館は、自由記述でそれぞれ、

- ・日本の漫画アニメーションは国際的に高く評価されているので、基本的には（漫画購入に）賛成である。
- ・世界で注目されている日本独自の発展を遂げたコンテンツを充実させるべき（「学習としての漫画の活用はもちろんのこと、講義の合間でのリフレッシュやリラックスを担う一助として漫画を設置している。今後も充実させていきたい」）。
- ・マンガを研究している教員が居り、マンガコーナーを設置している。

と答えている。

漫画の価値を認めている大学では、当然学生の購入要望も多い。これらの館は学生からの漫画のリクエストも活字本同様に受け付けている。

宮崎学園図書館では、従来漫画のリクエストは受け付けて来なかった。が、学生の潜在的なニーズは大きかった。むろん大学にもよるだろうが、要望が「ほとんど無い 34 少しはある 39」と答えている大学でも、「大学図書館では漫画は購入しない」と学生が思っているが故にリクエストとして出てこないという面があるのではないか。大学図書館の認識と実際の学生の要望とには「ずれ」があるとも考えられる。潜在的なニーズを顕在化する必要がある。

いずれにしる、多くの大学図書館が、学生からの漫画購入の要望は「無い」、あるいはあっても「少し」と認識しているのである。

③漫画のリクエストを受け付けているか。

回答は「ア、受け付けている 26 イ、受け付けていない 51」で、約 66%の大学図書館がリクエストを受け付けていない。

④ 漫画を別置しているか。

回答は「ア、している 22 イ、していない 56」（別館を含め2館分回答した館があるため78館）で、72%が別置していない。

全体に大学図書館では漫画の所蔵冊数は極めて少なく、「学生からの要望も少ない」と考えていることが分かる。

では、「大学図書館として、漫画を置くことへの賛否」をどう考えているのか。

⑤ 大学図書館として、漫画を置くことへの賛否とその理由（自由記述）

自由記述なので意見を幾つかに分類するのは難しい。

◎賛成 9大学（注 「理由」は、文意を損なわない程度に執筆者の方でまとめた）

*A 公立大学 賛成。漫画に資料的価値を認める。予算が減少しているので積極的には推奨していないが、学習に必要として教員が選定したものを購入。

*B 私立大学 日本の漫画アニメーションは国際的に高い評価を得ている。基本的には賛成。年間予算を設定し、リクエストの多い物、教員の推薦があった物、研究目的の物、評価を受けた漫画を購入。

*C 私立大学 manga という日本語が世界共通語になっている。世界で注目されている物なのでコンテンツを充実させるべき。芸術学部を有する総合大学なので、学生からの要望はもとより、学習としての漫画の活用は勿論、講義の合間でのリフレッシュやリラックスを担う一助として漫画を設置している。今後も充実させていきたい。

*D 私立大学・短大 図書館に滞在し一息つける場所の提供、学生が気軽に来館してくれる呼び水になってくれれば良いと考えている。

*E 私立大学 本学でも授業で利用している。特に問題は無いと考える。留学生には日本理解の資料の一つとして利用されている。

*F 私立大学 芸術学部の中にマンガ表現コースがあり、必要な資料。

*G 私立大学 マンガアニメーションコースが有り、参考資料として所蔵している。

*H 私立大学 マンガを研究している教員が居り、マンガコーナーを設置している。

*I 私立大学 学生からのリクエストは 100%受け入れる。マンガも例外ではない。今のところ、購入をためらうようなリクエストは出ていない。

積極的に賛成している大学図書館は9大学、約12%である。漫画を日本文化と位置づけ、研究対象とし、資料的価値を認めている。更に学生に癒しを与えるものとし、来館するきっかけとなることを期待している。I 私立大学に見られるように、学生からのリクエストを100%受け入れても「今のところ、購入をためらうようなリクエストは出ていない」ところもある。リクエストを受け付けることによって学生の選択眼を養うことに繋がるのではないか。

◎反対

*明確な否定的意見

- ・マンガを積極的に購入することは想定していない（国立大学）
- ・賛否の議論無し（国立大学）
- ・学術書の収集しか基本的に考えていない（公立大学）
- ・要望は殆ど無い（公立大学）
- ・基本的に置かない（公立大学）
- ・千円以下のものは学生が買うべき。所蔵する必要は無い（公立大学）
- ・漫画を置くことには否定的（公立大学）
- ・漫画を収蔵することには疑問を感じる（私立大学）
- ・賛成しない。学生の希望もない（私立大学）
- ・漫画を置く必要は無い(短大)
- ・図書を購入を優先(短大)

*反対だが条件によっては認める

- ・授業内容に関わる物は別途検討（私立大学）
- ・教育研究活動に必要であれば差し支えない（私立大学）
- ・教員要請の物は受け入れる（私立大学）
- ・内容を確認すれば受け入れても良い（私立大学）
- ・学習漫画は賛成（私立大学）
- ・日本の古典や高評価作品の外国語翻訳に限る。積極的に置かない（私立大学）

「授業に関わる物」「学習漫画」など条件によっては認めるという館も基本的には否定的であり、約88%の大学図書館は漫画を受け入れることに消極的だということになる。

4 漫画コーナーの設置とその効果

(1) 設置の経緯

大学図書館の約88%が漫画導入に消極的という現状の中、平成27年4月に漫画コーナーを仮オープンし、貸し出しを開始した。同年3月までに所蔵していた漫画609冊に4月中に購入配架した236冊を加え、845冊からの出発である。

漫画コーナーの正式オープンは、平成27年7月である。7月にずれこんだのは、宮崎県出身の漫画家さんにイラスト入りサインの寄贈をお願いしていたからである。漫画コーナ

一に「宮崎県出身漫画家の作品コーナー」を特設し、寄贈して戴いた自筆のイラスト入りサインを展示したのだが、それが揃ったのが6月だった。郷土出身漫画家16人の作品を可能な限り収集配架し、赤星たみこ、池田晃久、東村アキコ、吉富昭仁、横山裕一、磐秋ハルの各氏にイラスト入りサインを依頼した。皆快く承諾して戴いたのだが、東村アキコ氏は多忙なため未着である。大暮維人氏のように連絡が付かず断念したケースもある。イラストレーターとして著名な上杉忠弘氏（宮崎県延岡市出身）には、7点の作品を寄贈して戴いた。

漫画コーナーは図書館東側1階ラーニングcommons空間に設置した。漫画コーナー設置「賛成」理由として学生が挙げたのは「読むとくつろげる」が最多で、35%を占めた。したがって漫画コーナーも、くつろいで読める場にと考えたのである。ここにはゆったりした机と椅子が配備され、多くの学生で賑わうようになった。漫画は貸し出しだけでなく、ここで読まれているものも多いのである。たまにはあるが、地域の小学生が読んでいる姿も見られた。

しかし短大本館の耐震補強工事に伴い、事務部が半年ほどこの空間に入ることになり、漫画コーナーは2階に移った。その後、9月末に補強工事が完了し、漫画コーナーは再度元の場所へ移設した。

(資料3)

(2) 漫画コーナー設置による効果（入館者数、貸出冊数、リクエスト点数）

宮崎学園図書館では毎年度達成目標を設定し、年間を通して月毎の「数値目標到達状況」6項目（入館者数、学生貸出冊数、部屋の利用者数、インターネット等の利用者数、学生リクエスト点数、教員購入希望依頼点数）を記録している。このうち、入館者数、学生貸出冊数、学生リクエスト点数が漫画コーナー設置によってどのように変化したか、見ていくことにする。

下記は平成27年度の「入館者数・学生貸出冊数・学生リクエスト点数」の変移である。

※ 平成27年度 数値目標到達状況

①入館者数 27年度目標 53,000人以上 26年度実績 54,807人

人数等	月 間 到 達 状 況											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	5,568	5,945	5,709	7,838	4,018	1,332	7,563	5,151	5,204	5,080	3,755	1,940
累計	5,568	11,513	17,222	25,060	29,078	30,410	37,973	43,124	48,328	53,408	57,163	59,103
到達度	10.5%	21.7%	32.5%	47.3%	54.9%	57.4%	71.6%	81.4%	91.2%	100.8%	107.9%	111.5%

②学生貸出冊数 27年度目標 11,947冊 1人当たり貸出冊数目標13冊（学生数919人）
26年度実績 15,904冊 1人当たり貸出冊数実績約17冊（学生数935人）

大学図書館における読書指導～漫画コーナーの設置とその効果～

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
冊数	1,303	3,383	1,772	1,754	620	341	2,731	1,774	1,809	1,295	1,120	259
累計	1,303	4,686	6,458	8,212	8,832	9,173	11,904	13,678	15,487	16,782	17,902	18,161
達成度	10.9%	39.2%	54.1%	68.7%	73.9%	76.8%	99.6%	114.5%	129.6%	140.5%	149.8%	152.0%

③学生リクエスト点数 27年度目標 170点以上 26年度実績 262点

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
冊数	37	75	22	100	0	10	28	58	37	9	9	0
累計	37	112	134	234	234	244	272	330	367	376	385	385
達成度	21.8%	65.9%	78.8%	137.6%	137.6%	143.5%	160.0%	194.1%	215.9%	221.2%	226.5%	226.5%

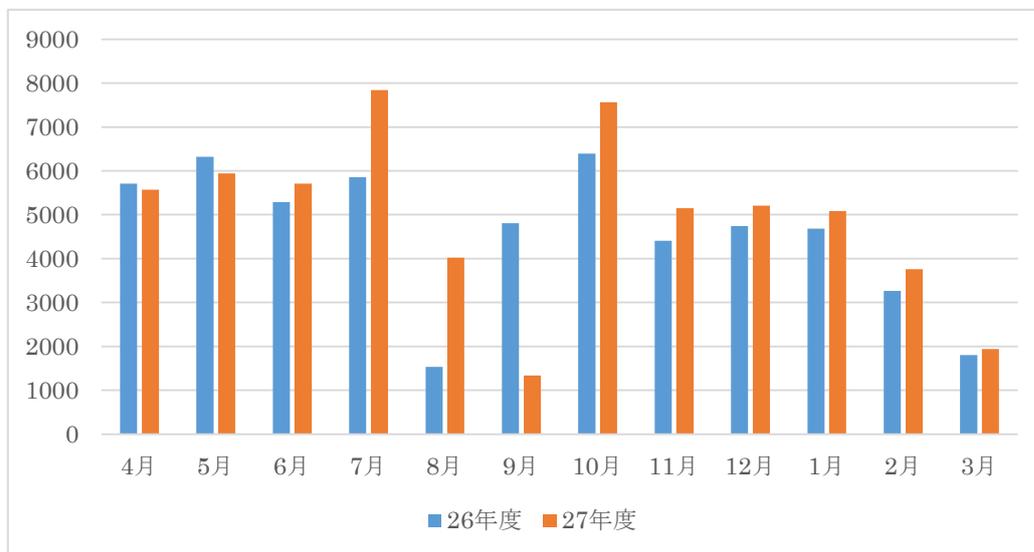
平成27年度の「数値目標到達状況」を見ると、入館者数、1人当たりの学生貸出冊数、学生リクエスト点数は、いずれも前年度に比べて増加している。

①入館者数

入館者数は、26年度実績が54,807人である。27年度は59,103人なので、4,296人の増加である。27年度2月段階の入館者数は57,163人であるから、既に2月段階で26年度の実績を上回っていたことになる。

月々の入館者数の変化をグラフにし、26年度と27年度を比較してみる。

※26年度及び27年度の月々の入館者数



4月、5月の入館者数は27年度の方が26年度よりも若干少ないのだが、6月からは多くなっている。特に7月になって急激に伸びている。7月に漫画コーナーが正式オープンしたためである。郷土出身漫画家やイラストレーターの色紙も揃い、地元の新聞でも大き

く取り上げられ、漫画コーナーに学生の関心が向けられたのである。

夏期休業の8月9月は入館者数も減少している。26年度9月の入館者数が多いのは、短大の後期授業がこの年度まで9月開始だったからである。

なお、入館者が学生か教職員かのチェックは不可能である。したがって入館者数の増加が学生によるものか否かは厳密には判断できない。しかし、学生貸出冊数・学生リクエスト点数の大幅な増加から考えて、学生入館者の増加と捉えるのが自然かと思われる。

②学生貸出冊数

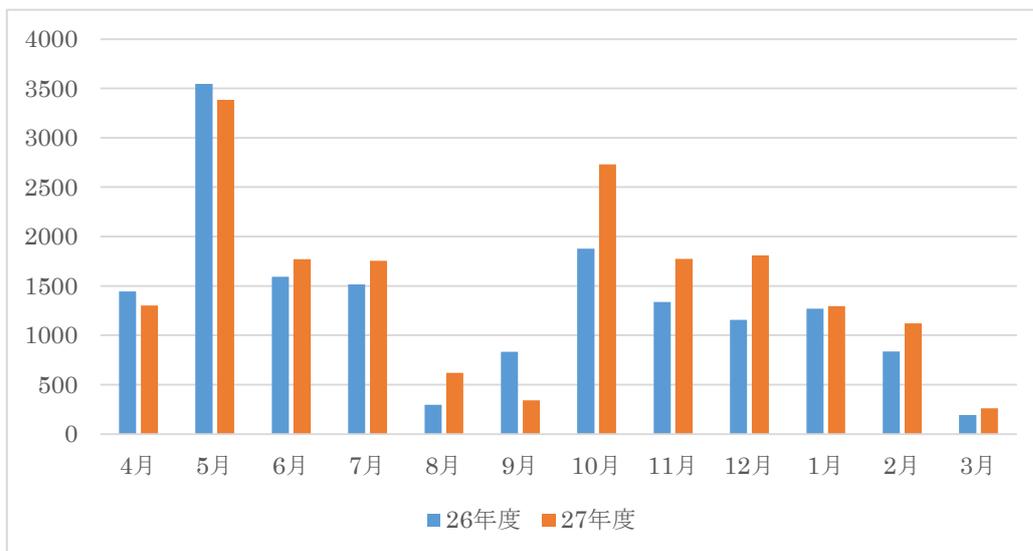
両年度共に、学生1人当たり貸出冊数の目標を「13冊以上」に設定している。

26年度の貸出冊数は15,904冊である。学生数935人、目標貸出冊数12,155冊であるから、131.0%の達成率となる。学生1人当たりの貸出冊数実績は約17冊である。

27年度の学生数は919人である。したがって目標貸出冊数は11,947冊である。貸出冊数18,161冊、152.0%の達成率である。1月が16,782冊なので、1月段階で前年度の最終実績を超えていることになる。学生1人当たりの貸出冊数実績は約19.8冊である。

学生数は935人(26年度)から919人(27年度)へと僅かながらも減少している。学生数減にも関わらず、貸出冊数は増えている。

※26年度及び27年度の月々の学生貸出冊数



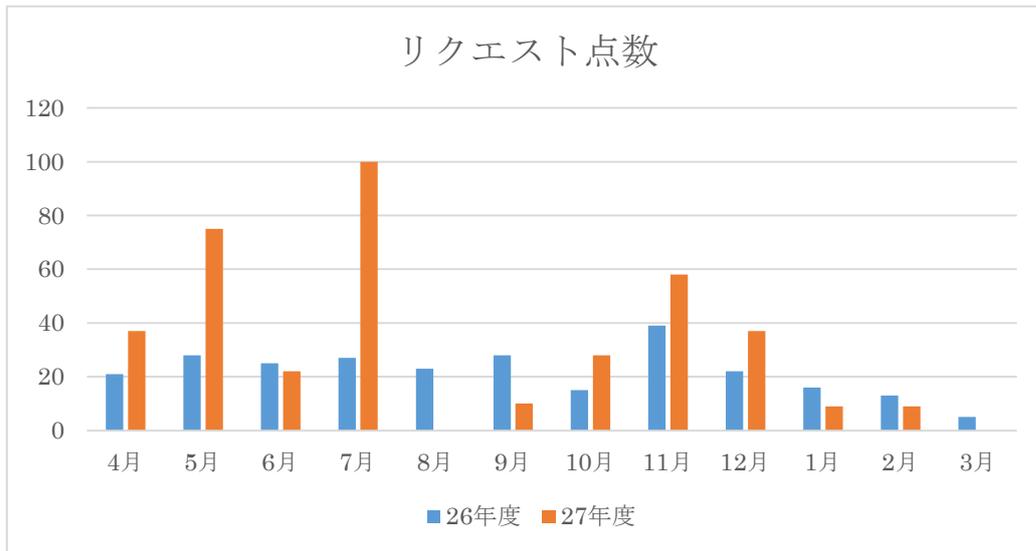
両年度月々の学生貸出冊数を比較してみると、入館者数に比例していることが分かる。4月5月は26年度の方が多くなっているが、他の月は9月を除いて27年度の貸出冊数が上回っている。前述したように、26年度は9月に短大の後期授業が行われている。

5月と10月に両年度共に貸出冊数が突出しているのは、短大保育科の保育・教育実習が行われ、実習関係の資料が借り出されるためと思われる。前期は6月1日から、後期は11月4日からの開始である。図書館では、その直前に資料の展示と貸出を行っている。

③学生リクエスト点数

注目されるのは学生リクエスト点数の増加である。170点以上の目標に対し、26年度実績は262点である。27年度は385点、目標226.5%の達成率である。10月段階で272件と、前年度最終実績を超えている。

※26年度及び27年度の月々のリクエスト点数



27年4月から漫画もリクエストできるようになり、リクエスト点数は前年度に比べて大幅に伸びている。特に漫画コーナーが正式オープンした7月には100件ものリクエストが来ている。その反動か、8月はゼロである。

5 漫画コーナー設置における成果と課題

(1) エッセイ・論文の募集

上述したように、漫画コーナーの設置によって、入館者数、学生貸出冊数、学生リクエスト点数は大幅に伸びた。なかでも、入館者数、学生リクエスト点数の伸びが大きな収穫だった。どれほどの学生が図書館へ興味を持ち、足を運んでくれるか、入館者数はその指標である。「大学図書館は学生に利用されてこそ存在意義がある」と考えるとき、入館者数の増加は欠かせない。また、リクエストは学生が自分で本を選ぶ主体的な行為である。26年度最終実績262点に対し、27年度は385点、226.5%の目標達成率である。10月段階で既に26年度最終実績を超えている。

漫画コーナーの設置には、漫画から活字本へと読書対象を広げて欲しいとの思いもあった。そのためコーナーには漫画に関する歴史、エッセイ、評論等の書籍も置いている。英語版の漫画も多数入っている。漫画を読むことから活字本の読書へと繋げていくことも本研究の目標の一つであった。その手立てとして「漫画に関するエッセイ・論文」の募集を行った。

(資料4)

学生からの応募は、エッセイ14(短大女子学生)、論文1(大学国際教養学部女子学生)

である。エッセイ部門「最優秀賞」「優秀賞」計2名、論文部門「奨励賞」1名を選出し表彰した。夏休み前（7月）に募集を開始し、締め切りは冬休み明けという短い期間だったので、エッセイはともかく研究論文は無理だろうと考えていたのだが、二年生からの応募を得た。題目は「高校生の歴史学習におけるマンガの利用とその効果」である。まだ二年生故に論文には荒さもあるが、調査に基づいた意欲的なもので、将来を期待し奨励賞とした。

（2）漫画から活字本へ

一方で、課題も残った。

本研究では、当初、「漫画コーナーの設置が活字本貸出増加へ繋がるか」も研究課題として考えていた。しかし結果的に、漫画の導入と活字本の貸出冊数との関係を明確化することは出来なかった。

○所蔵漫画数 1,502冊

26年度 漫画学生貸出冊数481冊（漫画貸出冊数594冊）

学生貸出冊数15,904冊 漫画を除いた貸出冊数15,423冊

27年度 漫画学生貸出冊数3,075冊（漫画貸出総冊数3,767冊）

学生貸出冊数18,161冊 漫画を除いた貸出冊数15,086冊

一般図書の学生貸出冊数 27年度＝337冊の減

漫画は平成27年度4月から2月までに893冊を配架した。それ以前から所蔵していた物609冊を加えれば1,502冊である。

26年度の学生貸出総冊数は15,904冊、漫画学生貸出冊数481冊（漫画貸出総冊数594冊）である。漫画を除いた貸出冊数は15,423冊となる。

27年度の漫画学生貸出冊数は3,075冊（漫画貸出総冊数3,767冊）、学生貸出総冊数は18,161冊である。漫画を除いた貸出冊数は15,086冊である。

したがって、27年度の一般図書の貸出冊数は前年に比べて337冊の減ということになる。漫画の貸出冊数は2,594冊の増である。漫画コーナー設置により27年度の貸出冊数は大幅に増えたが、一般図書の貸出冊数は僅か337冊ながらも逆に減ったのである。

この結果からすると「漫画コーナーの設置は活字本貸出増加へとは繋がらない」ということになるのだが、26年度と27年度では基盤になる学生層に変化があり、単純には比較できないのである。

本学では国際大学教育学部の新設にともない、短期大学の初等教育科、人間文化学科国語国文コースが平成26年4月をもって募集を停止した。27年度には学生数も減少し、読書率の高かった国語国文コースの学生もいなくなった。それでも337冊の減にとどまったことを考えると、募集停止が無ければ、逆に27年度の一般図書貸出冊数は増加したかも知れないのである。したがって「漫画コーナーの設置が活字本貸出増加へ繋がるか」の究明は、今後の課題ということになる。

(3) 学生と職員との交流

漫画コーナー設置後どのような変化を感じたか、カウンター業務の職員に聞いてみた。

- ・男子学生の来館が増えた。
- ・今まで利用していなかった学生の来館が増えた。
- ・借りることはしなくても、漫画コーナーでくつろいで読んでいる。
- ・貸し出しの回転がはやい。
- ・カウンターでのコミュニケーションが増えた。

図書館職員も「男子学生・今まで図書館を利用しなかった学生」の来館が増えたことを実感している。漫画コーナー設置によって不読者層、特に男子学生の図書館利用を促そうという目的はほぼ達せられたと言って良い。「カウンターでのコミュニケーションが増えた」のも、漫画ならではの。互いに読んでいる作品や、面白いと思ったものなど、学術書とは違って共通するものが多く、話題にしやすいのだろう。漫画を中にしての「学生と図書館職員との交流」、想定していなかった成果である。

また短大事務職員からは次のような感想が寄せられている。

「大学の図書館に行くことが殆ど無く、会議室予約に伺うだけだった私ですが、興味のある漫画が購入されたことを知り、恥ずかしながら初めて利用させていただいております。

漫画コーナーでは、学生が設置してある椅子に腰掛け、静かに読みふけている姿をよく見かけます。図書館という堅いイメージから少し解放されているようです。その学生たちが、少しずつ他の小説や書籍に興味を抱いてくれることを期待したいと思います。他人事ではなく私も時には漫画以外のものも借りて読んでみなくてはと思っています。

しかし、一方で漫画から知識や考え方等を得ることも多くあると思っています。ですから、これからも様々な方向からのアプローチで漫画書籍の充実も図っていただきたいと思っています。」

職員にも漫画コーナー故に図書館を利用し始めた人がいるのである。漫画の貸出冊数は3,767冊で、内、学生貸出冊数は3,075冊である。差し引くと692冊が教職員から借りられたことになる。今後も「漫画書籍の充実」を図っていき、学生だけでなく教職員にも大いに利用して戴きたいと考えている。

(4) 漫画の選書と今後

漫画の選書に関して担当者は「購入初年度のため手探りだったが、アンケート結果を参考に、学校もの、恋愛もの、スポーツもの等々偏りのないようバランスよく選書した。その際、Webサイト等で内容・評価をチェックし、高評価の物を選んだ。場合によってはWebサイトの試読や書店で現物に目を通し確認した。」と述べている。漫画コーナーが生きるか否かは選書次第である。図書館員が漫画に精通することが充実へと繋がっていく。

漫画から活字本へどう繋げるか、具体的な手立てが必要である。例えば、テーマを設定し、「漫画本+活字本」「漫画本+DVD・CD+活字本」など蔵書を組み合わせで展示する、加えてパネルによる解説、広報を行うなどして活字本へと導く、などが考えられる。

今後は活字本へ繋げることを意識した計画的な漫画購入を心がけ、学生の声を反映しながらコーナーを充実させていきたい。

付記

本研究は、2015年度私立大学図書館協会研究助成（機関研究）によるものである。

2016年8月26日、私立大学図書館協会研究大会（会場：上智大学）において研究発表を行った。研究メンバーは、宮崎学園図書館：菅邦男（館長）、小橋智子（図書課長）、山元奈々（書記）、羽生由三子（書記）である。執筆は菅邦男が担当した。

このような研究機会を設けて戴いた私立大学図書館協会に感謝申し上げます。

なお、研究発表の際の質疑応答を以下に記しておく。

※質疑応答

○司会：菅さま、小橋さま、山元さま、ありがとうございました。

ただいまの発表につきまして、会場の皆さまからご質問を受けたいと思います。挙手をお願いいたします。

○A氏

○○大学のAと申します。ありがとうございます。

なかなか面白いテーマで、これを実施するのは本当に大変だったのだろうと思っています。背景をもう少し詳しく知りたいというのが1点、時間の関係で省かれたのではないかと思います。工夫をした点の2点について聞きたいと思っています。

1つは、大学が置かれている環境という点で、近くに公共図書館があるのかないのかです。その公共図書館で漫画を置いているか、置いていないか。漫画と言ってはいけませんが、漫画もいろいろな分野があるので、いわゆる大学図書館以外に公共図書館的なもの、京都には漫画図書館（京都国際マンガミュージアム）があるのですけれども、今、自分たちの図書館以外に、漫画や軽い読みものを扱った図書館があるのかないのかが1点です。もし、ないようであれば、やはりそういうニーズはあるのでしょうか、それに対しては何かをしなければいけないと思いますし、そういう必要性はあるのではないかと考えていました。

もう1つは、漫画コーナーとしてしまうとそこは漫画しか置いていないのかなというイメージがあるのですが、活字本とつなげていくのであれば、漫画だけではなくて、漫画を背景に日本の文化、漫画を世界がどう捉えているかなどのいろいろな本が出ています。そのあたりと一緒に並べていたり、もしくは展示をしたりしているのかなと思ったのです。そのへの取り組みがあれば、少し紹介してください。よろしくお願いします。

○菅（宮崎学園図書館）

近くに公共図書館があるかということですが、大学と同じ町内に公民館の図書室みたいなものがあります。規模も小さくて、とても図書館と言えるようなものではありません。宮崎市立図書館も近いとは言いがたく、県立図書館は更に遠いところにあります。学生が日常的に公共図書館を利用することは困難な状況です。

県立図書館や宮崎市立図書館も漫画を入れているようですが、むろん京都マンガミュージアムのようなものではありません。いずれにしろ、距離的な問題もあって学生が利用するには、甚だ不便と言えるかと思います。

漫画コーナーには漫画しか置いていないのかというご質問ですが、漫画を中心に、漫画に関する評論や漫画の歴史などの本を置いています。漫画に関連する活字本を入れるということは当初から考えていたのですが、何しろ初年度は漫画を入れること自体に時間を取られ（漫画家さんにイラストを描いて戴く交渉もありましたし）、それほど充実させることは出来ませんでした。

○B氏

○○大学のBと申します。本日は貴重なお話をありがとうございました。

聞き逃しだったら申し訳ないのですけれども、漫画本を収書するにあたって、漫画と言えどもいろいろな分野があって、ひとくくりには言えないと思うのです。実際に漫画コーナーを設置して収書するとなると、図書と同じように、何か基準といったものを設ける必要があると思っています。例えば、学生がリクエストをするにしても、恐らくいろいろな分野の漫画本をリクエストすると思います。そのあたりは、どのような線引きをして、収書をされるのかについてお聞かせいただければと思います。

○菅（宮崎学園）

収書に関して予め採否の基準を設けることはしませんでした。学生のリクエストを中心にその都度判断しながら選書しています。ですから判断基準が無かったわけではありません。ただ、皆で話し合って基準を作り、それに沿って選書するということはしなかったという意味です。1年余りやってみて、皆で話し合わなければならないような事態は生じませんでした。

○C氏

私も非常に興味のあるテーマなのですけれども、漫画に関する研究テーマを設けたというきっかけですね。図書館の利用率の問題、あるいは学生の学力低下というのがあり、もっと図書館を利用させるためという目的だったのか、そのきっかけを教えてくださいたいのが1つです。

もう1つ、活字離れという問題ですが、私も教員の経験として、一番簡単な新聞について東都系の大学と通常の私立大学とで、調べたことがあるのです。例えば、40人クラスの中で、新聞のレベルでも、5人とか、10人ぐらしか学生は毎日読んでいない。活字離れが非常に大きいのです。ですから、そういう意味で活字を読ませるきっかけとして、学習漫画として検討するのは非常に賛成の部分があるのですが、そのへんをちょっと教えていただきたいの

です。

○菅（宮崎学園図書館）

発表の中でもちょっと触れたのですが、私が漫画導入を考えたきっかけはビブリオバトルでした。宮崎大学に誘われて初めて参加したときに、短大の初等教育科（当時）の男子学生は全員漫画を持ってきたのです。「これは何？」と聞いたら、「僕たちは漫画しか読みません」との答えでした。それで漫画について話を始めると、当然彼らの方がよく知っています。「僕はそんなのは知らないな」と言ったら、喜々として説明するわけです。それがすごく詳しくて。こんなに漫画に興味を持っていて、読みたいと思っているのなら、もっと読ませてやりたいと思いました。授業料は皆平等に収めてもらっているわけですから、漫画購入の要望があれば、それはそれで活字本と同様に受け入れるべきではないかとも思いました。

それに、彼らはあまり図書館に来ない学生たちでした。ですから、漫画が導入されればこの子たちもきっと図書館に足を運ぶであろうとの考えも、当然ありました。

活字離れは本当にすごいです。新聞等はほとんど読まないと思います。ですから、私たちの当面の目的は、とにかく図書館に足を運んで欲しい、そうすればそこで色々なものを見るだろうし、活字本を借りている学生とも話をするだろう、『あさきゆめみし』を読んで『源氏物語』を読むだろう（とまではなかなか行かないでしょうが）、関連するものを読んでみるとか、そういうことも期待しているわけです。

お答えになりましたでしょうか。

○C氏

実は、図書館の立場と、教員の立場として話をしますと、結局、図書館の利用率や、活字離れの問題は、図書館だけで解決しようとしても、なかなか難しい問題であると考えます。これは各大学でもそうだと思うのですが、やはり教員が漫画に対する学習、漫画に関する理解度を深め、ある程度タイアップするかたちで図書館と組めば、かなり学生の利用率が高まるのではないかという気がいたします。

○菅（宮崎学園図書館）

はい。そのとおりだと思います。アンケートをとったときに、特に教員の反応が低かった。ほとんど関心を示していない。ですから、漫画に関してこういうテーマで研究助成金をいただいたことが知れ、研究成果等も読んでもらえれば、教員の意識も変わっていくのではないかと、期待をしています。おっしゃるとおりだと思います。教員の認識はすごく大きいと思います。

○C氏

どうもありがとうございました。私も実は先ほど言ったように、新聞という普段読まれるものですら学生が読んでいないという実態に驚愕しまして、非常に共鳴いたします。

○菅（宮崎学園図書館） ありがとうございます。

○司会：それでは、これで終了させていただきます。ご報告いただきました宮崎学園図書館の3人の方々にもう一度拍手をお願いいたします。

資料1

宮崎学園図書館漫画コーナー設置に関するアンケート（学生用）

私立大学図書館協会研究助成によるプロジェクトです。「大学図書館における漫画コーナーの設置とその効果」アンケートへのご回答、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

1. あなたは日頃、漫画本や活字本（文章のみで構成された本）を読みますか？

- 漫画本は読むが、活字本はほとんど読まない
- 活字本は読むが、漫画本はほとんど読まない
- 漫画本も活字本もよく読む
- 漫画本も活字本もほとんど読まない

2. 宮崎学園図書館に漫画本コーナーを設置することについて、どのように思いますか？

- 賛成 反対 どちらとも言えない

3. Q3で「賛成」と答えた方へ：理由を教えてください（複数回答可）

- 漫画は日本の誇るべき文化
- 読むとくつろげる
- 漫画本も活字本も、色々読みたい
- 漫画で国際交流ができる
- その他（理由： _____）

4. Q3で「反対」と答えた方へ：理由を教えてください（複数回答可）

- 漫画は子どもの読むもの
- 漫画は低俗で本とは呼べない
- 図書館で購入するべきではない
- 漫画本を買う費用で活字本を買ってほしい
- その他（理由： _____）

5. Q3で「どちらとも言えない」と答えた方へ：理由を教えてください（複数回答可）

- 内容による
- 漫画本を読まないので分からない
- その他（理由： _____）

6. 宮崎学園図書館に、宮崎県出身の漫画家の作品があれば、読んでみたいと思いますか？

- 読みたい
- 読みたくない
- どちらとも思わない

7. 宮崎学園図書館で購入してほしい、宮崎県出身の漫画家の作品があれば書いて下さい。

- 漫画家の名前（ _____ ） 作品名（ _____ ）
- 漫画家の名前（ _____ ） 作品名（ _____ ）
- 漫画家の名前（ _____ ） 作品名（ _____ ）

8. 宮崎学園図書館で購入してほしい、好きな漫画家の作品があれば書いて下さい。

- 漫画家の名前（ _____ ） 作品名（ _____ ）
- 漫画家の名前（ _____ ） 作品名（ _____ ）
- 漫画家の名前（ _____ ） 作品名（ _____ ）

資料2

第66回九州地区大学図書館協議会総会 承合事項7

大学図書館に漫画（学習漫画を含む）を置くことの是非についてお伺いしたい。（①～④については記号をカッコにお書き下さい）

①現在、大学図書館にどの程度漫画を所蔵しているか（おおよそ、蔵書数の何パーセントを占めるか）。

ア、0% イ、5%未満 ウ、5～10%未満

エ、10～15%未満 オ、15～20%未満 カ、20%以上

②学生は漫画を購入して欲しいと思っているか。図書館は潜在的な要望をどう感じているか。要望は、

ア、ほとんど無い イ、少しはある ウ、多い エ、とても多い

③漫画のリクエストを受け付けているか。

ア、受け付けている イ、受け付けていない

④漫画を別置しているか。

ア、している。 イ、していない。

⑤大学図書館として、漫画を置くことへの賛否とその理由（自由記述）。

資料3

*図書館西側2階の漫画コーナー（9月に元の場所へ移設）



大学図書館における読書指導～漫画コーナーの設置とその効果～

*当初の漫画コーナー（図書館東側1階）



*郷土出身漫画家コーナー 赤星たみこ氏の直筆イラスト 他



* 磐秋ハル氏の直筆イラスト



* 池田晃久氏 吉富昭仁氏 横山裕一氏 の直筆イラスト



*イラストレーター上杉忠弘氏の寄贈作品（2階漫画コーナーへの階段踊り場に展示）



資料4 *英語版漫画



*エッセイ・論文募集チラシ

宮崎学園図書館

私立大学図書館協会 2016年度研究助成プロジェクト

漫画に関する

エッセイ&論文大募集!!

待ってます!! あなたの漫画にかけたい思い! 漫画にまつわるエピソード!!

エッセイ部門	論文部門
(テーマ)：漫画に関するものなら何でも	(テーマ)：漫画に限ることなら何でも
最優秀賞：図書カード ¥10,000分	最優秀賞：図書カード ¥20,000分
優秀賞：図書カード ¥5,000分	優秀賞：図書カード ¥10,000分
※応募者全員に参加賞あり	※応募者全員に参加賞あり

☆ 応募受付開始：2015年10月1日(木)
 ☆ 応募締切：2016年1月15日(金)
 ☆ 応募資格：宮崎国際大、宮崎学園短期大学の学生さん(高校生も可)
 ☆ 結果発表：2016年2月初旬

※ 詳しくは、図書館内掲示、配布募集要項又は宮崎学園図書館ホームページをご覧ください。
 ※ お問い合わせは、図書館カウンターまで!

今年1年、宮崎学園図書館はこんな研究・事業を行います!

【研究テーマ】 大学図書館における漫画コーナーの設置とその効果
 ～埼玉(宮崎県)出身漫画家との接点を探って～

☆ 漫画は大学図書館に特化している? 特化していない?
 ☆ 漫画を採集するのではなく、良質な漫画本を提供し、読者の読書へとつなげていくことは可能?
 ☆ 日本国内だけでなく海外でも活躍する宮崎県出身の漫画家やその作品をたどることで、学生の意識は?
 ☆ コーナー設置で入館者は?
 ☆ コーナー設置に関して学外からの反応は?
 ☆ 学生さんの漫画本に関するエッセイや論文の募集! などなど...

※参考資料 新聞掲載記事

1, 宮崎日日新聞 平成27年7月23日 (宮崎日日新聞社提供)

掲載日: 2015年07月23日 面数: 2枚 記事ID: 20150723_012946464636

©宮崎日日新聞社



宮崎大学図書館に設置された漫画コーナー、漫画家やイラストレーターが、色紙や写真を貼っている様子。

活字本利用につなげる

大学図書館に漫画1300冊

宮崎市・宮崎学園

本県出身者の代表作中心

宮崎国際人も地元出身の学生が中心で、本県出身の漫画家やイラストレーターが活躍している。宮崎大学図書館に、郷土産の漫画家16人の作品を中心とした1300冊の漫画が、宮崎学園に設置された。また、宮崎国際人も地元出身の学生が中心で、本県出身の漫画家やイラストレーターが活躍している。宮崎大学図書館に、郷土産の漫画家16人の作品を中心とした1300冊の漫画が、宮崎学園に設置された。

漫画は、地域の子どもたちにも読んでもらうことを目的として、宮崎大学図書館に設置された。また、宮崎国際人も地元出身の学生が中心で、本県出身の漫画家やイラストレーターが活躍している。宮崎大学図書館に、郷土産の漫画家16人の作品を中心とした1300冊の漫画が、宮崎学園に設置された。

平成27年9月17日

掲載日: 2015年09月17日 面数: 2枚 記事ID: 20150917_012946464636

©宮崎日日新聞社

宮崎国際人も地元出身の学生が中心で、本県出身の漫画家やイラストレーターが活躍している。宮崎大学図書館に、郷土産の漫画家16人の作品を中心とした1300冊の漫画が、宮崎学園に設置された。

本県は隠れ漫画王国

宮崎国際人も地元出身の学生が中心で、本県出身の漫画家やイラストレーターが活躍している。宮崎大学図書館に、郷土産の漫画家16人の作品を中心とした1300冊の漫画が、宮崎学園に設置された。

宮崎国際人も地元出身の学生が中心で、本県出身の漫画家やイラストレーターが活躍している。宮崎大学図書館に、郷土産の漫画家16人の作品を中心とした1300冊の漫画が、宮崎学園に設置された。

2, 夕刊デイリー 平成27年8月24日 (夕刊デイリー新聞社提供)

手塚の漫画の形は、昔ながらの漫画の形に似ている。手塚の漫画は、昔ながらの漫画の形に似ている。手塚の漫画は、昔ながらの漫画の形に似ている。

挑戦してみよう。手塚の漫画は、昔ながらの漫画の形に似ている。手塚の漫画は、昔ながらの漫画の形に似ている。

手塚の漫画は、昔ながらの漫画の形に似ている。手塚の漫画は、昔ながらの漫画の形に似ている。手塚の漫画は、昔ながらの漫画の形に似ている。



手塚の漫画の形に似ている。手塚の漫画の形に似ている。手塚の漫画の形に似ている。



手塚の漫画の形に似ている。手塚の漫画の形に似ている。手塚の漫画の形に似ている。

県内出身作家の作品を中心に

宮崎学園図書館 漫画コーナー

今夏、本格オープン

宮崎学園図書館は、県内出身作家の作品を中心に、漫画コーナーを本格オープンしました。このコーナーは、県内出身作家の作品を中心に、漫画コーナーを本格オープンしました。このコーナーは、県内出身作家の作品を中心に、漫画コーナーを本格オープンしました。



手塚の漫画の形に似ている。手塚の漫画の形に似ている。手塚の漫画の形に似ている。



大学図書館にふさわしい？
活字本へつながるのか？

タウン